

極低出生体重児における経皮ビリルビンとアンバウンドビリルビンの相関を調査するため、当院に入院された患者さんの診療情報を用いた医学系研究に対するご協力をお願い

研究責任者  
京都第一赤十字病院 新生児科 医長  
宇都宮 剛  
連絡先電話番号 075-561-1121

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院された患者さんの診療情報を用いた下記の医学系研究を、当院倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出くださいようお願いいたします。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

1. 対象となる方

2019年4月1日から2024年3月31日までの期間に京都第一赤十字病院 NICU に入院された極低出生体重児（出生体重が1500g未満の児）

2. 研究課題名

極低出生体重児における経皮ビリルビンとアンバウンドビリルビンの相関について

3. 研究実施機関

京都第一赤十字病院新生児科

4. 本研究の意義、目的、方法

- 生まれて早期の新生児には黄疸がみられることがあります。黄疸は血液中のビリルビンという物質の濃度が高くなることであり、血液検査でしらべることが

できます。経皮ビリルビンは機械をもちいて皮膚にあてることで血液中のビリルビン濃度を予測できるものであり、数値が高い場合は血液検査をして血液中のビリルビン濃度を測定するというように使用されています。また、ビリルビンは血液中のたんぱく質と結合しているものと結合していないものがあり、後者をアンバウンドビリルビンといいます。このアンバウンドビリルビンと経皮ビリルビンに相関がみられるかどうかは出生体重が小さなお子さんにおいては報告されていません。

- 本研究の目的は、極低出生体重児において経皮ビリルビンとアンバウンドビリルビンに相関がみられるかを調査することです。本研究は今後、極低出生体重児の黄疸管理を行っていく上で、有益な情報になると考えます。
- 極低出生体重児として出生し、当院に入院した患者さんの生に1か月未満の経皮ビリルビンとアンバウンドビリルビンの値について、診療内容の情報を電子カルテから収集いたします。

#### 5. 協力をお願いする内容

入院年月日、性別、在胎週数、出生体重、光線療法の有無、経皮ビリルビン値、アンバウンドアンバウンドビリルビン値など、診療録に記載されている情報を提供いただきます。

#### 6. 本研究の調査実施期間

倫理審査委員会承認後～2026年3月31日

#### 7. プライバシーの保護について

本研究では、匿名化した患者様のデータを集計し、その数値を結果として発表する予定ですので、患者様個人の診療情報が発表されることはありませんし、また、患者様を特定できるような情報も含まれません。

#### 8. お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

京都第一赤十字病院

新生児科 医長 宇都宮剛

連絡先: 075-561-1121 (代表)

E-mail: [takeshi-utsunomiya@kyoto1.jrc.or.jp](mailto:takeshi-utsunomiya@kyoto1.jrc.or.jp)

以上